

NEWSLETTER

No.65

6 January 2017

・2016年地理学教室の行事記録	・ ・ ・ ・ 1
・第16回地理ワークショップの開催	・ ・ ・ ・ 2
・2016年度国土館大学地理学会夏季巡検(名古屋・浜松巡検)報告	・ ・ ・ ・ 3
・2016年度地理実習の記録	・ ・ ・ ・ 5
・卒業論文公開口頭試験について	・ ・ ・ ・ 9
・2016年度卒業論文公開口頭試験日程	・ ・ ・ 10
・国土館大学地理学会費の納入について	・ ・ ・ 12

【2016年地理学教室の行事記録】

1月10日	世田谷の歴史地理巡検(岡島)
2月 6・8・9日	2015年度卒業論文公開口頭試験
3月 4日	国土館大学地理学会冬季巡検(東京都心部:宮地)
3月19日	学位記授与式
5月 3日～5日	福島農村実習(宮地)
5月15日	野外生物観察会(生田緑地:磯谷)
5月21日	日本の土壌環境 巡検(等々力溪谷:前杵・加藤)
5月25日～26日	地理学野外実習A(1年生実習,川崎市麻生区黒川地区:専任教員全 員)
6月11日	国土館大学地理学会(MCH4階中教室) <総会> <講演会>「スイスにおける産業の『棲み分け』」加藤幸治先生 <懇親会>1号館1階 学生ラウンジ
6月25日	日本の土壌環境 巡検(荒川と下町低地:前杵・磯谷)
7月15日	食と農の地理学 築地市場巡検(宮地)
7月30日	第16回地理ワークショップ(柴田会館3階会議室) <テーマ>「災害の地理を考える」 (講師:鈴木毅彦先生,小関勇次先生)
8月 1日～3日	学外実習(山梨県忍野村:宮地)
8月 2日～6日	測量実習(世田谷校舎・若林公園:海津)
8月22日～9月 2日	奄美大島・沖縄本島サンゴ礁調査(長谷川)
9月 8日～9日	国土館大学地理学会巡検(愛知県名古屋市・浜松市:加藤)
9月23日～25日	福島農村実習(引率:宮地,福島県二本松市)
9月27日～28日	地理学野外実習B(2年生実習:専任教員全員)
10月25日～28日	地理学野外実習C(3年生実習:専任教員全員)
12月17日	「創立50周年記念」国土館大学地理学会(34号館B205教室) <研究発表会>市丸翔太,前平千晶,遠藤 慧・岡田真次・佐藤孝 樹,安藤将吾,立澤大樹・山崎佳奈・佐々木悠人・川崎大輝,糸賀 輝,佐藤正樹 <講演会>「国土館大学在職30年プラスその後」長島弘道先生 「古き良き時代」 野口泰生先生 「地理学教室の50年とこれから」 磯谷達宏先生 <懇親会>34号館地下食堂

【第16回地理ワークショップの開催】

テーマ:「災害の地理を考える」

地理・環境専攻では、大学の研究成果や教育の成果を社会・教育界へ還元するという主旨で、2001年度より「地理ワークショップ」を開催してきました。16回目となった今年度は、7月30日（土）に開催しました。

今年のテーマは、「災害の地理を考える」としました。近年における相次ぐ大規模な災害の発生は、防災に対する社会的な関心を高めています。現在の学習指導要領においても、中学校の地理的分野、高等学校 地理Aでは、自然災害や防災対策に関わる内容が盛り込まれています。災害・防災教育の充実は、地理教育の重要な課題になっているといえるでしょう。あわせて、地理学においてもこれらの研究の深化が求められていると考えられます。

そこで、今回の地理ワークショップは、中学校や高等学校における災害・防災教育の現状と課題、大学における災害・防災研究の到達点などを学びながら、「災害の地理」のこれからを考えるワークショップとしました。講師に自然地理学、地形学、第四紀学がご専門の鈴木毅彦先生（首都大学東京）と地理教育、国際理解教育がご専門の小関勇次先生（元千葉県立東葛飾高等学校、現東京家政大学ほか・非）をお招きしました。参加者は24名。午後のワークショップでは、グループごとに多彩な意見が交わされ充実した一日になりました。

(宮地忠幸)

◎プログラム

◆7月30日（土）10:00～17:00

※講師の先生：敬称略

開会の言葉・趣旨説明	宮地忠幸
湿潤変動帯に位置する日本列島の自然災害の特徴	鈴木毅彦
自然地理学教育とハザードマップを活用した身近な防災	鈴木毅彦
「被災地教育」のすすめ方（その1）	小関勇次
「被災地教育」のすすめ方（その2）	小関勇次
まとめ・閉会の言葉	磯谷達宏



写真1. 鈴木先生の講義の様子



写真2. 小関先生の講義の様子



写真3. 災害・防災・被災地教育のあり方を議論する参加者の皆さん



写真4. 発表会の様子
内容の濃い発表が相次ぎました。

【2016年度国土館大学地理学会夏季巡検（名古屋・浜松巡検）報告】

2016年度1回目の巡検となる夏季巡検が、2016年9月8日～9月9日に愛知県・静岡県内で実施されました。参加学生は計3名（2年生2名，3年生1名）で、引率教員は加藤先生にお願いしました。今回の巡検では「中京・東海工業地帯を支える第二次産業」について学ぶことを目的としました（図1）。

2016年度 国土館大学地理学会 夏季巡検行程表

- ・日 程：2016年9月8日（木）～9月9日（金）
- ・テ マ：中京・東海工業地帯を支える第二次産業
- ・引 率 教 員：加藤幸治先生
- ・集 合：東海道新幹線，名古屋駅新幹線改札口
- ・解 散：東海道新幹線，浜松駅
- ・行 程：.....徒歩，——電車，====バス

<1日目>名古屋駅（10:00 集合）.....ノリタケの森.....トヨタ産業技術記念館（昼食）====
栄（散策）.....ホテルルートイン（17:00 到着）

<2日目>ホテル（9:00 出発）.....栄駅——赤池駅.....レトロでんしゃ館，名古屋市営地下鉄日進
工場.....赤池駅（昼食）——高塚駅（名鉄線，豊橋駅経由）.....スズキ歴史館.....
高塚駅——浜松駅（17:30 解散）

図1 巡検の概要

1日目は、名古屋駅で集合し（写真1）、初めに加藤先生から日本の三大都市の一つとしての名古屋の位置づけについて解説して頂きました。名古屋駅からノリタケの森までの道中には駅周辺で高層ビルの建設が複数進んでおり、三大都市の力を感じることができた。その後、ノリタケの森では加藤先生から森村グループについて解説して頂きました。森村グループは、現在のTOTO(株)、INAX(株)、日本ガイシ(株)等のもととなる財閥でした。その中のノリタケカンパニーリミテド(株)の工場跡地に、ノリタケの森は建てられました（配布資料による）。ノリタケの森では、同社が製造している高級陶磁器の製造工程やこれまでの製品等が展示されていました。その後、トヨタ産業技術記念館に移動しました。同館は「繊維機械館」と「自動車館」の二か所に分かれており、両館の見学を通じて現在のトヨタグループに至るまでの歴史や技術等を知ることができます。なかでも、自動車の駆動方式の展示は分かりやすいものでした。同館には日本の見学者だけではなく、海外からの見学者も多数来訪しており、「世界のトヨタ」であることを改めて実感することができました（写真2）。また、スイス製の蒸気機関の実演が行われており、動く姿は迫力がありました。なお、昼食は同館にて各自食事を取りました。その後、栄周辺を散策し、ホテルへ向かいました。



写真1. 名古屋駅にて



写真2. トヨタ産業技術記念館にて

2日目は、栄駅から地下鉄を乗り継いで赤池駅へ、そこから徒歩でレトロでんしゃ館へと向かいました（写真3）。レトロでんしゃ館では、名古屋市交通局の歴史を知ることができました。その後、同館に隣接する名古屋市営地下鉄日進工場において、元現場職の方から工場について説明して頂きました（写真4）。ここでは、鉄道の仕組みやメンテナンスの頻度等について理解を深めることができました。近年はモーターなどの

部品のオーバーホールを他の会社に委託しているとのことでした。その理由は、委託することにより費用が削減できるからとのことでした。



写真 3. レトロでんしゃ館に到着



写真 4. 名古屋市営地下鉄日進工場にて

名古屋市営地下鉄日進工場を後にし、赤池駅にて各自昼食を済ませました。その後、名鉄豊田線、三河線、名古屋本線、東海道本線と乗り継ぎ、浜松駅の隣駅である高塚駅まで移動しました。そこから徒歩でスズキ歴史館へ向かいました。スズキ歴史館は、スズキ自動車の工場に隣接する形で立地しており、近隣の住宅や駐車場の車やバイクは、スズキの車種が多かったようにみえました。創業当初は、スズキ自動車もまたトヨタと同じように織機メーカーであったのですが、のちに二輪自動車・四輪自動車等の生産を行うようになりました（同館パンフレットより）。当初は、自転車にエンジンを載せた原動付自転車を生産・販売をしていましたが、のちに一般的な形のバイクを生産・販売するようになり、その後に軽自動車をはじめとする四輪車の生産も行われるようになりました。展示されていた当時の軽自動車は、現在の規格より小さく、いかに現在の軽自動車や普通車が、安全性や居住性等の各面から大型化したのかが分かりました。スズキ歴史館にもトヨタ産業技術記念館と同様、海外からの見学者もたくさんいました。このことは、最近に訪日観光客が増加しているということばかりではなく、スズキ自動車の主な販売先であるインドなどからの訪問者が多いことによるのかもしれないと考えました。その後、東海道本線に乗り、浜松駅にて解散となりました。



写真 5. スズキ歴史館にて



写真 6. 解散前の高塚駅にて

私たちは、この巡検を通して沢山のことを学ばせていただきました。参加してくださった方々に、今回のテーマである「中京・東海工業地帯の第二次産業」に関して少しでも多くの知識が身につけていることを願っています。そして、今回の巡検の計画を立てる段階から親身に相談に乗ってくださった加藤先生をはじめ、参加者の方々の協力のおかげで、当日はトラブルもなく無事に巡検を終ることができたことを感謝しています。ありがとうございました。

国土館大学地理学会行事部 久保 秀平

※写真の出典:写真 1~6 は加藤先生撮影。

【2016 年度地理実習の記録】

地理学野外実習 A : 5 月 25 日 (水) ~ 5 月 26 日 (木) 実施

◎長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤・宮地

実施地 : 川崎市麻生区黒川地区

参加学生数 : 76 名 (男子 65 名, 女子 11 名)

テーマ : 丘陵地の自然環境と人間生活

—映画「となりのトトロ」に描かれた丘陵地の自然環境と人間生活を参考に—

目的 : 多摩地区における丘陵地の土地利用に関する調査を行い, 地形と土地利用の関係, 都市化・宅地化の進行の特徴やその要因等について考察することを通じて, 地理調査や地理的思考法の基本を体得する.

課題 : 図表を含めて 400 字詰め原稿 10 枚以上相当のレポート.
提出日時 ...7 月 12 日 (火) 5 限「地域調査法」の授業時



写真 1. 長谷川先生の関東地方の地形解説からスタート



写真 2. チェックポイントで指摘を受ける学生たち



写真 3. 農業生産者にヒアリングをする学生たち



写真 4. 丘陵地の地形と植生の関係を学ぶ

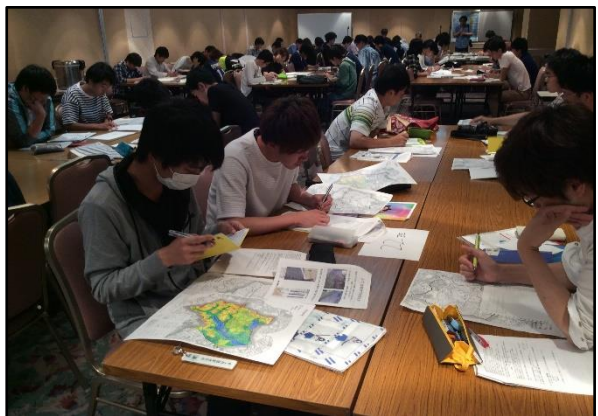


写真 5. 1 日目の夜 : ミーティングで調査内容をまとめる



写真 6. 2 日目のまとめの授業を聞く学生たち

地理学野外実習B（2年生対象）：9月27日（火）～9月28日（水）実施

◎長谷川

実施地：神奈川県三浦市周辺（三浦半島南部と城ヶ島）
参加学生数：12名（男子9名，女子3名）
テーマ：この地域の特徴である海岸地形や地質を学ぶ
内容：この地域にみられる砂浜海岸や岩石海岸，関東大震災の際に隆起した海食台にみられる地形の観察方法を学んだ。また，海食台や岩石海岸で観察される特徴ある堆積構造，火山灰を観察した。この調査を通して砂浜海岸，岩石海岸のみかたを学んだ。
課題：調査結果に基づいて，A4版20～30枚のレポートの作成。



長谷川班：三浦半島で地形の調査中

◎内田

実施地：長野県軽井沢町，群馬県安中市坂本地区
参加学生数：11名（男子8名，女子3名）
テーマ：観光地の調査と観光地の場所イメージの解説
内容：①旧軽銀座における観光関連施設の分布と30年間の変化について調査する。②高級避暑地・別荘地としての「軽井沢」のイメージが観光資源としてどのように利用されているかを調査し，人文主義地理学の手法を用いて考察する。③近代化産業遺産としての碓氷峠鉄道施設を見学する。
課題：レポート3本を作成する：
①軽井沢の風景の特徴とその地域的拡がりについて，
②旧軽井沢における観光施設の30年間の変化について，
③観光地の記号としての「軽井沢のイメージ」



内田班：碓氷峠第3橋梁（通称：めがね橋）下にて（橋上にも2人います）

◎岡島

実施地：千葉県香取市佐原地区・茨城県潮来市
参加学生数：参加学生数：17名（男子17名，女子0名）
テーマ：河川交通の役割と歴史的町並みの形成過程－佐原を事例として－
内容：佐原重要伝統的建造物群保存地区における町並みの観察調査および住民への聞き取り。伊能忠敬記念館・伊能忠敬旧宅の見学。歴史的町並みの調査結果に基づく地図を作成し，考察する。
課題：標記のテーマについて所定の分量のレポートを作成する。なお夏休みに事前学習を行っている。



岡島班：佐原の歴史的町並みについてお話を伺う

◎磯谷

実施地：長野県蓼科方面
参加学生数：7名（男子6名，女子1名）
テーマ：山地帯～亜高山帯の植生
内容：茅野市内から縞枯山にかけての地域でみられる植生について，組成・構造・動態・立地などの視点から調査した。
課題：指示された項目にしたがって，この地域の植生について図表を含めてA4版20枚程度のレポートにまとめる。



磯谷班：茅野市内の里山地域にて

◎加藤

実施地：東京都品川区
参加学生数：11名（男子11名，女子0名）
テーマ：品川区における「工場跡地」の利用—品川の地誌、とくに産業構造転換と地域変化について—
内容：品川区内に約20年前（1995年初）に立地していた工場（50人以上）の「その後」を調べる。現存する工場とその特徴（業種・立地の特徴など）、跡地利用の状況（転換状況・土地所有など）やその特徴（業種・立地の特徴など）を調査し、都市の土地利用変化について考察する。それを通じて、経済地理学的な見方・考え方・調査法の基礎を学ぶ。
課題：調査結果に関する図を作成し、調査結果にもとづいた内容についてレポートする。



加藤班：集合写真
（品川インターシティ前）

◎宮地

実施地：群馬県川場村
参加学生数：15名（男子13名，女子2名）
テーマ：農村における地域資源を活用した特産品づくり
内容：農村振興策の一つとして位置づけられる特産品開発の実態を調査した。とくに、近年の川場村で取り組まれているリンゴやブルーベリーなどの果実を使った特産品開発（ジュース、ドレッシング、菓子類）の実態を、村役場、農業生産者、加工品製造業者、地元の直売店等でヒアリング調査した。
課題：現地での調査結果をもとに、図表を含めA4版12枚以上のレポートにまとめる。



宮地班：川場村のむらづくりを先導した宮田さんと学生たち

地理学野外実習C（3年生対象）：10月25日（火）～28日（金）実施

◎長谷川

実施地：福島県南会津町，下郷町
参加学生数：6名（男子6名）
テーマ：班ごとにテーマを設定し、現地調査を行う。
内容：河成段丘調査，スキー場の開発と景観変化，UAVを使った崩壊地調査の3グループに分かれて，観察および調査を行う。
課題：現地で得たデータをもとに，A4版30枚程度のレポートを作成するとともに，A0版のポスターを作成する。



長谷川ゼミ：段丘地形の調査中

◎内田

実施地：沖縄県那覇市およびその周辺地域
参加学生数：12名（男子9名，女子3名）
テーマ：学生各自でテーマを設定し，現地調査を行う。
内容：首里城公園における観光客の行動パターン，沖縄海洋博公園における観光客の行動特性，座間味村における民宿地域の形成と現状，沖縄県における華僑・華人の生活空間，地域インフラの発達・整備による着地型観光の発展—沖縄県ハンタ道を事例に—，太平洋戦争沖縄戦についての認知度—沖縄県観光客を対象に—，那覇市におけるアパレル小売店の立地



内田ゼミ：ホテルのロビーでブリーフィング

とアメリカンカジュアルの関係，など
課題：各自設定したテーマにしたがって，現地で得たデータをもとに分析・考察を行う。

◎岡島

実施地：高松市および周辺地域
参加学生数：9名（男子7名，女子2名）
テーマ：歴史地理学・交通地理学等に関する地域調査
内容例：多度津町の町並み形成と変容，金刀比羅宮への参詣について，小豆島の観光地形成，地方鉄道と沿線住民：高松琴平電鉄琴平線，地方私鉄の現状：志度線およびJR高徳線，高松都市圏を発着する高速バスの利用状況，高松都市圏から高松市内までの住民の利用交通手段，高松駅周辺地域における鉄道・バスの利用実態，本町踏切における交通量調査
課題：各自のテーマに従ってレポート作成。



岡島ゼミ：高松城下町について説明を聞く

◎磯谷

実施地：香川県さぬき市
参加学生数：13名（男子11名，女子2名）
テーマ：香川県北東部の自然地理
内容：香川県さぬき市付近でみられる気候環境や動植物の生態地理について，各自が事前にテーマを設定して調査した。具体的に選ばれたテーマは，ヒートアイランド，雑木林の樹種構成，河辺草原の組成，マツ枯れ，獣害，川の魚類群集と個体群，ため池の動植物の生態分布であった。
課題：図表を含めてA4版30枚程度のレポートにまとめる。



磯谷ゼミ：さぬき市内の里山にて

◎加藤

実施地：山梨県甲府市
参加学生数：3名（男子2名，女子1名）
テーマ：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査・地域調査を行う
内容例：山梨県甲府市における宝石小売業，甲府市の水晶加工業，甲府市の中心商店街
課題：各自のテーマについて，『卒業論文の手引き』にもとづき，レポートをまとめる。



加藤ゼミ：集合写真（甲府駅）

◎宮地

実施地：広島県世羅町
参加学生数：10名（男子7名，女子3名）
テーマ：班ごとに設定したテーマにもとづいて現地調査を行う。
内容：①特産品班：地場産農産物を活用した特産品開発の実態とその地域経済効果，②農村観光班：農家民宿の経営実態，移住者の生活，地域自治活動の実態，③農業班：中山間地域における集落営農の実態，をテーマに現地調査を行った。
課題：班ごとにA4版25枚以上（図表含む）のレポートにまとめる。



宮地ゼミ：お世話になった民宿・「田舎の宿」の永田さんご夫妻と

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して合否を決めています。今年度も下記の通り、卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。試験は、持ち時間9分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジュメを用意し、出席者に配布できるよう準備してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピー、その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーなどは、必ず持参してください（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）。これらは卒論の合否が決まるまで処分しないこと。

就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

なお評価の結果、優秀な卒論2編は、全国地理学専攻卒論発表大会（2017年3月中旬・東京学芸大学）で発表してもらうこととなります。発表者は、2月8日中に決定し、すぐに通知します。

日 時：2017年 2月6日（月）、7日（火） 9：30～
2月8日（火） 10：00～
場 所：世田谷校舎 10号館2階 10204教室（階段教室）

注意事項（4年生はよく読んでおくこと）：

※ 試験時間は、1人18分（発表9分、質疑応答9分）である。発表者は発表用原稿を必ず用意し、あらかじめ発表の練習をしておくこと。発表の内容はもちろん、発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる。なお、発表時は予鈴7分、本鈴9分の合図があります。

※ 発表に際しては、かならず以下の要領でレジュメを用意しておくこと。レジュメはワープロによって作成することが望ましい。

1. レジュメは、論文題目、氏名、論文の要旨（目的・方法・結果を書く。字数が多くなりすぎないように、計800字程度を目安にするとよい）、説明に使用する図表によって構成する。
2. レジュメの枚数は、A3サイズで2枚横書き（図表を含む）とし、各自40部ずつ用意する（自費でコピー：図表がカラーでないと判別しにくい場合はカラーコピーをするか、口頭試験用に図表を白黒で描き直すこと）。
3. レジュメは、発表者交代の合間に次の発表者が配るものとする。その際、まず教員に配ること。
4. レジュメの文章を、そのまま読むような発表は控えること。口頭試験の発表用原稿を別に用意することが望ましい。

※ 発表では、PCプロジェクター等も使用できる。使用希望者は事前に専攻主任（磯谷）またはゼミ担当教員に申し出ること。なお、PCプロジェクターを使う場合、原則としてノートPCは各自で用意すること。また、ディスプレイの設定等が必要なため、PCのマニュアルをよく読んで設定方法を確認し、発表までに動作確認等しておくこと。PCプロジェクター使用の場合、接続切り替え等に時間を取られすぎないように、前後の発表の人の使用を確認し、機器を一時的に借りる（同じPCを使用する）などの工夫も心掛けること。

※ 地域調査士の資格取得へ向けて、2014年度から申請前部分審査制度が始まり、3月中に認定証を受け取ることができるようになりました。 資格取得希望者は、1月末（以降）に日本地理学会資格専門委員会から郵送される書類を熟読し、同封されている申請書に必要事項をすべて記入し（顔写真も必要）、「ステップ2」の書類を口頭試験日程期間中に主査へ提出すること（※「ステップ1」の書類は各自対応すること）。その後、副査が記名・押印し、一括して返却する。この機会をのがすと申請前部分審査制度を適用できないことになるので、卒業予定者は必ずこの機会に行うこと。

※ 3年生は卒論作成の参考のため、また来年の口頭試験のためにも、全員出席し、大半の発表を聞くようにすること。1、2年生もできるかぎり1日以上出席すること。 2年生にとっては3年以降の専門分野（ゼミ）の選択する上で、もっとも参考になる行事なので、できる限り多くの発表を聞くことが自分のためにもなります。

※ 次ページ以降は、口頭試験のプログラムです。

表中の「地調」は地域調査士資格、「GIS」はGIS学術士資格の申請者を示す。

【2016年度卒業論文公開口頭試験日程】

番号	氏名	題目	主査	副査	地調	GIS
◎第1日目：2月6日（月）						
9：30～10：30 <進行：加藤>						
1	桑折 拓磨	地方鉄道廃止と沿線地域 －長野電鉄河東線・屋代線を事例に－	岡島	宮地	○	
2	門脇 圭祐	乗車人員の変化に伴う駅周辺地区の変容 －JR宝塚線を事例に－	岡島	内田		
3	石山 智史	多摩川中流域におけるサギ類のねぐらの分布変遷と その環境条件	磯谷	長谷川		
10：50～12：05 <進行：加藤>						
4	菅原 孝太	湘南イメージの変遷について －藤沢・鎌倉・茅ヶ崎のタウン誌をテキストとして－	内田	岡島	○	
5	江連 大貴	工場見学に対する意識と地域性 －関東地方と近畿地方の飲食料品工場を事例に－	内田	宮地	○	
7	野本 貴士	秋田県小坂町における資源循環型産業の構築へ向けた 取り組みの実態	宮地	加藤	○	○
8	長谷川 翼	道の駅保田小学校の利用者の特徴と来訪目的	内田	宮地	○	
12：50～15：25 <進行：宮地>						
9	大庭 佑介	都市化に伴う浸水の原因	長谷川	磯谷	○	○
10	塩澤 泰裕	公園における利用者の行動特性 －神奈川県立相模原公園を事例に－	内田	宮地		
13	大塚 憲司	歴史的町並みの保存と重伝建地区の住民意識 －栃木県栃木市を事例に－	岡島	内田	○	
14	鈴木 克興	栃木県佐野市北部における大型哺乳動物による獣害と その対策	磯谷	長谷川	○	
15	間下 善貴	「平成27年9月関東・東北豪雨」による農業被害の実態 －茨城県常総市を事例に－	宮地	岡島	○	
16	西山 智	関東地方中南部における スギ（Cryptomeria japonica）衰退の現状とその要因	磯谷	長谷川	○	
18	谷本 祐哉	近代における旧城下町の発展過程 －石川県金沢市を事例に－	岡島	内田		
19	菖蒲 健太郎	山梨県道志村における中・大型哺乳類による 農作物被害とその対策について	磯谷	長谷川		
15：35～18：10 <進行：長谷川>						
20	小林 佳史	高速道路のIC開通と周辺土地利用の変化	岡島	加藤	○	
24	國田 大喜	埼玉県川越市における観光イメージ －小江戸川越を事例に－	内田	岡島		
25	池田 祥希	川越城下町の歴史的変遷と地域構造	岡島	内田		
26	佐野 清志郎	東京都千代田区丸の内における スターバックスの立地と特徴	加藤	岡島		
28	宮野 涼太	山梨県小菅村における地域おこし協力隊の活動実態と 地域づくり	宮地	岡島	○	
29	牛尾 祐太	広島県宮島における観光客の行動様式	内田	岡島		
32	馬場 康平	道路交通環境に着目した交通事故多発地点の分析と 改善策について－千葉県内の交差点を事例に－	岡島	内田		
35	小林 美月	若者の地方体験交流事業による都市農村交流の意義 －宮城県栗原市を事例に－	宮地	加藤	○	○
◎第2日目：2月7日（火）						
9：30～12：05 <進行：磯谷>						
37	増田 紋加	クライנגルテンが及ぼす地域的影響とその意義 －茨城県笠間市を事例に－	宮地	加藤	○	
38	丹生 耀介	東京都における銘柄豚事業の展開と養豚産地の再編成 －TOKYO Xの生産と販売事業を事例として－	宮地	加藤	○	

41	青山 昌繁	大都市圏郊外における居住者の移動行動 －長久手市市が洞を事例に－	内田	加藤		
44	吉岡 大貴	千葉県南房総市岩井地区における 体験教育旅行の受け入れと民宿事業の実態	宮地	内田	○	
45	小林 航二郎	埼玉県上尾市における農業体験農園の展開と運営課題 －市街化調整区域の農業体験農園を事例として－	宮地	加藤		
46	北島 歩史也	大都市圏郊外部ニュータウンにおける持家取得の傾向 および現状－茨城県古河市けやき平地区を事例として－	加藤	岡島	○	
47	諸橋 夏海	福島県における「大学生の力を活用した集落復興支援 事業」の取り組みの実態とその課題	宮地	加藤	○	
48	長塚 保	「中央線カルチャー」における高円寺の 文化空間の形成要因と役割	内田	宮地	○	
12:50～15:25 <進行:岡島>						
50	鈴木 大輝	下部温泉における宿泊施設の経営動向と温泉機能の変容	内田	宮地	○	
51	鈴木 竜生	千葉市幕張の居住者における地域イメージと その地域性について	内田	岡島	○	
52	清水 駿伍	埼玉県中南部における自然林の樹種構成の分布と その成立要因	磯谷	長谷川	○	○
53	近藤 建斗	レジャー施設がもたらす河川への影響 －山梨県都留市、鹿留川を例に－	長谷川	磯谷	○	○
55	出口 拓人	2016年熊本地震により発生した斜面崩壊の特徴	長谷川	磯谷	○	○
56	黒澤 亮	コンテンツツーリズムにおける場所の認識について	内田	加藤		
58	新井 大輝	鹿児島県シラス台地における斜面崩壊危険地点の抽出	長谷川	磯谷	○	○
60	原 裕綺	航空交通がもたらす観光業への影響	加藤	岡島	○	
15:35～18:10 <進行:内田>						
62	松原 祥平	大井川下流部にみられる複列砂州・鱗状州の経時変化	長谷川	磯谷	○	○
64	前原 翔吾	松川浦におけるアマモ場分布の経年変化 －UAVによる接近画像と空中写真判読をともに－	長谷川	磯谷	○	
65	國信 佳祐	津波災害における避難施設・避難経路の安全性の研究 －神奈川県鎌倉市を例に－	長谷川	磯谷		○
68	福嶋 栄美	宮崎市の居住地域構造	加藤	岡島		
72	伊邊 明里	CSR活動の多様化と企業と地域との交流実態と その意義－JTと陸前高田市の取り組みを例に－	宮地	加藤	○	○
73	大道 楓	東京都八王子市における農産物加工事業の実態と 地域的効果	宮地	加藤	○	
75	大宜見 朝史	山間地域におけるバス交通の現状と課題 －埼玉県皆野町を事例に－	岡島	内田		
77	樋口 達也	三浦半島森戸川流域における明治期以降の植生復元と その変遷	磯谷	長谷川	○	

◎第3日目：2月8日（水）

10:00～12:00 <進行:岡島>						
56	矢島 諒太	北海道の水稲作産地における新品種の導入動向と産地振興	宮地	加藤		
13	遠藤 敬太	千葉県における宿泊施設の動向	加藤	宮地		
36	宮 健太	山梨県甲州市勝沼町における気候環境について －気候環境によるぶどう栽培への影響－	磯谷	長谷川		
42	大山 秀樹	伊豆地域におけるヘルスツーリズムの現状	内田	加藤		
70	飯田 純平	宇都宮市オリオン通りの現状	加藤	岡島		
87	岡田 悠暉	多摩丘陵南部における景観の変遷について	磯谷	長谷川		
13:00～15:00 <進行:内田>						
6	叶 李楠	日本と中国におけるお茶栽培地の 気候環境に関する比較研究	中村	磯谷		
57	斉藤 悠太	日本における梅雨期の特徴－日本の地形に着目して－	中村	長谷川		
61	岩田 有梨沙	伊勢湾周辺地域における海岸部と内陸部の気候環境比較	中村	磯谷		
70	佐藤 宏昭	秦野盆地における逆転層の特徴と出現域について	中村	長谷川	○	
71	板倉 豊	北陸地方の冬の北西季節風下における輪島の南風について	中村	磯谷	○	
59	沖田 翼佑	QGISを用いた関東平野における8月の気温変動の調査	中村	長谷川	○	○

【国士舘大学地理学会費の納入について】

下記に掲げる学生は、国士舘大学地理学会費（4年分・12,000円）が未納となっていますので、至急支払いください。地理学教室では4年分の会費を納めていない学生については、卒業を認めておりません。いずれ払うことになりますので、早めに納入することを勧めます。会費未納者は、必ず1月末日までに郵便振替で会費を納入すること。期日内に納入しなかった者については、保護者宛てに督促状を再度送ります。

振替用紙は郵便局にありますので、「口座番号：00150-7-161762，加入者名：国士舘大学地理学会」および通信欄に自分の学年と氏名を記入のうえ、所定の金額を窓口またはATMで振り込んでください（ATMでの振込のほうが手数料は安くなります）。

注：疑問・質問等は内田・宮地まで連絡して下さい。

なお、上記は2017年1月5日現在の未納者です。

重要事項！必ず読むこと！

研究室、図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（2月初旬）までに必ず返却して下さい。

4年生で未返却の者は、卒業資格を満たしていないとみなします。